

こころのバリアフリー 3

正しく知ろう！

HTLV-1のじつ

HTLV-1とは、成人T細胞白血病ウイルスのことで、縄文時代から日本人が持っていたウイルスです。現在全国100万人以上と言われています。

HTLV-1キャリアはウイルスを持つまま何事もなく一生を過ごす人がほとんどです。しかし、成人T細胞白血病やリンパ腫(ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HAM)を発症することがあります。

ATL：一般的な白血病(急性骨髄性白血病)とは異なり20歳以上になってから発症するT細胞というリンパ球ががんになった病気です。
HAM：HTLV-1に感染したTリンパ球が脊髄に入り込み、神経を破壊し「歩行障害」や「排尿困難」「感覚障害」などを起こします。症状が進むと車椅子が必要になる場合もあります。

今年度の人権センター公開講座でお話を伺いました
菅付加代子さん
(日本からHTLVウイルスを
なくす会代表理事)

菅付さんは、輸血によりこのウイルスに感染し、脊髄症を発症され20年になります。誰かがしてくれるではなく、自分がやるという思いで、これまであまり対策を講じてこなかった国に対し、対策の必要性を訴え続けてこられました。

菅付さんらの活動は実を結び、平成22年12月 国・地方公共団体・医療機関・患者団体などの密接な連携を図り、HTLV-1総合対策が講じられるようになりました。

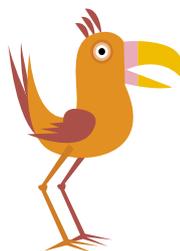
キャリアの人は、偏見が伴い名前が出せないなどつらい状態があるそうです。正しく理解して、そのようなことにならないようお願いしたいと強く語られました。

参加者の声

どんな差別もやはり当事者ではなく周りの意識の問題だと思います。

誰かが行動を起こし、伝えていかなないと何も解決しないし、正しく知ってもらわないと、差別にもつながるのだと思いました。

声をあげることの大切さ、自分自身とは自分で守らなければならないと改めて感じました。



感染の原因

- 1 輸血：1987年以前は輸血による感染が見られましたが、それ以降の輸血感染は防止されています。
- 2 夫婦感染：主に夫から妻への感染で、妻から夫へは極めてまれです。現在のところではATLの発症はありません。
- 3 母子感染：主に母乳中のリンパ球から子どもに感染します。

対応策

感染経路の6割といわれる母乳を介した母子感染を防止するため、妊婦健康検診におけるHTLV-1抗体検査を実施し、結果に基づき適切な保健指導やカウンセリングを行うようになりました。

小郡市でも妊婦検診の項目に追加され無料で検査を受けられるようになりました。

その他、相談支援や診療体制の整備、国民への普及啓発、また研究開発にも予算を投じ推進されるようになってきました。